



歯学部創設30周年



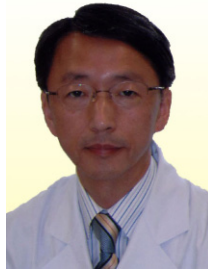
発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えます。

佐々木崇寿教授の死を悼む

歯学部長 宮崎 隆

口腔組織学教室主任教授 故佐々木崇寿先生の昭和大学歯学部葬が、2月21日午後1時から本学上條講堂で学内外の多くの来賓ならびに大学関係者、そして学生の参列のもとに厳粛に執り行われました。大学代表として細山田明義学長、歯学部教授代表として立川哲彦教授、学会代表として社団法人日本顕微鏡学会会長の山科正平先生(北里大学医学部教授)、友人代表として高橋直之先生(松本歯科大学教授)、そして学生代表として3年生の川田大助君が弔辞を拝読し、故人のご遺徳とご功績を偲びました。



佐々木先生は、去る平成19年1月15日未明に、54歳の生涯を閉じられました。前途洋々たる佐々木教授の余りにも早い訃報に接し、関係者一同、大きな驚きと強い悲しみに襲われました。

先生は昭和27年に北海道でお生まれになり、東京歯科大学を卒業後、昭和54年より昭和大学に勤務し、今日まで30年近く口腔組織学の教育と研究にたゆまぬ情熱を注いできました。私が昭和59年に本学に奉職したときに、佐々木先生は既にこの分野の代表的な研究者で、先生の国際的な活躍には、同じ歯学部の教員として大いに刺激を与えられました。

佐々木先生は平成10年に東昇平教授の後任として、当時の第二口腔解剖学教室(その後口腔組織学教室に名称変更)の主任教授に就任し、それまでの研究をさらに押し進めて、新しい研究に果敢に取り組み、多くの大学院生や研究生を指導し、教室員を育成しました。

先生は学生教育に非常に情熱を發揮し、本学部の新カリキュラムだけでなく、富士吉田における初年時教育の準備コアカリキュラムの制定に多大な貢献をされました。さらに、平成18年度からは富士吉田教育部の教授を兼任し、講義のみならず指導担任として学



生教育に全力を注がれました。

先生は一昨年より食物の通りが悪いと自覚していましたが、富士吉田教育の準備や講義、指導担任、教授総会などの業務等で、全く受診の時間がとれず、昨年の夏休み前にやっと藤が丘病院を受診しました。病の進行は予想以上に早く、すぐに入院になり、学生の夏休みを利用して手術を受け、その後自宅療養と入院を繰り返してきました。お亡くなりになる直前まで、再度教壇に立つ意志を持ち続け、次年度のシラバスの執筆や講義のことを心配していたそうです。まさに、学生教育に最後まで情熱を持ち続けた壮絶な一生でありました。

佐々木先生の研究と教育に対する高邁なご遺志を、あとに残された我々教員一同はしっかりと受け止め、先生のご功績とご貢献に限りない尊敬と感謝の念を捧げ、静かにご冥福をお祈り申し上げます。

昭和歯学会特別例会 退職記念講演会

昭和歯学会担当理事 山本 松男

去る2月17日(土)午後、歯科補綴学教室川和忠治教授と歯周病学教室宮下元教授の退職記念講演(昭和歯学会特別例会)が歯科病院6階第一講義室で行われました。

川和教授は、「顎口腔系に調和したクラウンの咬合を目指して」という演題で、現在に至る臨床と研究の成果とその意義について大変明解に、時にユーモアを交えながらご教示いただきました。宮下教授は「長期観察したインプラントの術後経過」と題し、歯周病だけでなくインプラント周囲炎に対する取り組みの成果を、数多くの症例写真とともにお話頂き、大変示唆に富むご講演でした。

ともに、過去40年余にわたる長い臨床経験の中から歯科学の中で大変貴重な、本質的な事柄をご講演いただいたものです。教科書には書いていない、しかし欠くことのできないエッセンスを前に、改めて両先生の深い洞察力に基づく、すばらしい臨床に感銘を受けました。両先生の昭和大学歯学部における臨床、教育、研究に対し深く感謝を申し上げますとともに、今後のますますのご発展を祈念いたします。



祝 福原名誉教授 瑞宝中綬章受章

歯科矯正学 中納 治久/久保田 雅人

平成18年11月3日、内閣府が発表した秋の叙勲で福原達郎 昭和大学名誉教授が、長年にわたる歯科教育や研究、特に歯科矯正学の発展に貢献された功により瑞宝中綬章に叙せられました。心から祝詞を申し述べますとともに、昭和大学歯学部 歯科矯正学教室の後輩としてもたいへん名誉なことと存じます。



瑞宝章は明治21年に制定されました。勲章のデザインは古代の宝であった宝鏡を中心に大小16個の連珠を配して、四条ないし八条の光線を付し鈕には桐の花葉を用いています。制定時には勲一等から勲八等まで存在していましたが、平成15年の栄典制度改革で6階級に改められ、各階級の名称も現在のように改められました。

平成19年2月12日(祝日)、恵比寿のウェスティンホテル東京で、昭和大学歯学部歯科矯正学教室主催の「福原名誉教授 瑞宝中綬章 受章祝賀会」を催しました。当日は爽やかな晴天に恵まれ、約250人もの恩師、先輩、同僚、そして先生から教わった後輩の先生など、各方面の関係者にお集まり頂き、盛大に祝宴を挙げる事ができました。福原名誉教授のお話では、平成18年11月8日、皇居で行なわれた受章式典に出席され、天皇陛下から直接お言葉を賜ったと誇らしげにお話されていました。その時の裏話として



は、当日は持病の坐骨神経痛が悪化し、車椅子で式典に参加されたため、それが陛下の目に留まったのだとの事です。

現在では、腰の症状も緩解し、益々ご活躍です。我々後輩も、叙勲受章された先生から教を受けた事を誇りに、福原先生に負けないように頑張りたいと思います。

診療統計 (平成19年1月分)

医事課課長 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16,470	716.1	760.7	832.2
入院患者	352	11.4	15.5	9.0

(土曜日半日も1日として扱うため、平均は見かけ上下がっている)

香港大学との学部間提携

国際交流委員会 山本 松男

昭和大学歯学部と香港大学歯学部は2月15日に学生や教員の教育・研究に関する国際交流協定について合意をし、両学部学部長に



より署名がなされました。香港は日本との時差が1時間、同じアジア地域の仲間として共通する価値観も少なくありません。1997年に英国から中華人民共和国に返還されましたが、大学をはじめとする高等教育は英語で行われ、英国はもとより中国、シンガポールやオーストラリアといった環太平洋地域内での交流が盛んに行われています。

香港大学歯学部は1980年代初頭に初めて学生を受け入れて以来、毎年50人の卒業生を送り出してきました。人口700万人の香港で唯一の歯学部であり、少数精鋭の教育をほとんど全てPBL形式で行っています。大学は5年制で、臨床実習は2年次のスケーリングにはじまり臨床参加型の教育方法を取り入れています。専任スタッフは約50人です。教育病院であるために治療費は市中クリニックに比較して安く、現在の香港社会の中において教育と臨床の両者が調和され機能しています。単純に日本の歯学部・歯科病院との比較はできませんが、現地での視察や昭和大学歯学部を訪れていた香港大学歯学部生(最終学年)の教育到達度から、知識と技術のバランスのよい教育が行われているものと思われます。口腔外科や歯科矯正、歯周病などの専門領域のトレーニングは、歯学部卒業後に2年から3年間のマスターコースが設定され、フルタイムやパートタイムなど勤務条件との兼ね合いで各自が選択します。香港大学へは本学部の教員が過去にも訪問しており、2004年に歯科放射線学岡野教授が訪問された際の手記に詳しい事情が紹介されています。

<http://www.senzoku.showa-u.ac.jp/dent/radiol/member-j/okano/essay/essay-top.htm>

香港大学は、特に教育の面において今後の日本の歯科教育が取り入れるべき要素を沢山もっているといえます。もちろん我々昭和大学歯学部の築いてきたものとうまく調和させ独自の方法を作り上げることが重要です。そのためには、歯学部学生に限らず教職員を含めた国際交流を積極的に展開することが大切です。このような取り組みが昭和大学歯学部の発展のみならず日本の歯科界への新しい風となって貢献できることを願ってやみません。

インプラント科診療科長就任挨拶

インプラント科 真鍋 真人

この度、平成17年12月12日付けで昭和大学歯科病院インプラント科を担当させて頂くことになりました。インプラント科は平成15年6月の理事会で承認された、歯科病院の新設診療部門の一つで、患者にわかりやすい専門性の高い診療科を整備し、診療の増収を図る目的で設置されました。この目的に見合うような診療実績が上がるよう頑張っていく所存です。



デンタルインプラントを用いた治療は近年めざましい発展を遂げ、適応範囲も一般的な歯牙欠損に対する補綴にとどまらず、従来法では回復困難であった顎欠損症例や矯正治療のアンカーとしての利用など多岐にわたっており、歯科治療のオプションとして無くてはならないものとなっています。しかしながら、近年における骨結合型のインプラント治療はそれ以前のものに比較して遙かに高い予知性と科学的根拠を有していますが、治療の歴史が浅く、臨床主導、あるいは企業主導で発展してきたため、学問としては未成熟でバックボーンのない商業主義的傾向も多く見られています。大学病院としての特性を生かした高いレベルでのインプラント治療を行うにあたり、出来るだけ科学的なコンセンサスの得られた術式を選択し、安全性や倫理性の高い治療を行うことが重要であると考えております。

は1月31日に行われ、65名(男子34名、女子31名)が合格しました。センター入試は、昨年より42名減の143名の志願者がありました。そのうち25名が大阪会場の志願者でした。合格発表は2月8日に行われ、17名(男子11名、女子6名)が合格しました。

以上のように昨年度よりも志願者が減ってしまいましたが、全国的に見ても多くの私立歯科大学で受験生は減少しています。3月4日には選抜期試験が行われます。職員の皆様にはご協力をよろしくお願い申し上げます。



D4共用試験 CBT実施報告

CBT委員長 中村 雅典

1月23、24日の両日、今年度のCBTを本学2号館第6講義室で前半・後半の学生にわけて行いました。機構側から東京医科歯科大学嶋田昌彦教授と東京歯科大学河田英司教授がモニターとして来られました。今年度は残念ながら16名の再試験受験者があり、2月20日にCBT再試験を行いました。機構側からモニターとして愛知学院大学伊藤裕教授が来られました。本試験、再試験ともに事故なく無事に終了することが出来ました。モニターの先生皆さんから、昭和大学の学生は態度がとても良いというお褒めのコメントをいただきました。学生には基本的態度だけでなく、登院前のこの試験を契機として、しっかりと基本知識を整理してもらいたいと思います。

歯学部選抜 期入試報告

口腔生理学 井上 富雄

試験	募集人員	出願期間	試験日	合格発表
推薦	23名	H18.11.1 ~ 11.8	H18.11.12(日)	H18.11.14 (火)
編入	若干名	H18.11.1 ~ 11.8	H18.11.12(日)	H18.11.14 (火)
センター	10名	H19.1.4 ~ 1.23	H19.1.20(土), 21(日), H19.1.28(日)	H19.2.8(木)
選抜期	55名	H19.1.4 ~ 1.23	H19.1.28(日)	H19.1.31(水)
選抜期	8名	H19.2.13 ~ 2.28	H19.3.4(日)	H19.3.6(火)

1月28日(日)に平成19年度の歯学部選抜期試験、センター入試(大学入試センター試験利用入学試験)が旗の台キャンパスと大阪会場(新大阪丸ビル新館)で行われました。当日は、東京は曇り、大阪は晴れて例年より暖かい天候に恵まれました。選抜期の志願者数は全体で516名となって昨年よりも90名減少しました。このうち大阪会場に79名の志願者があり、昨年より39名の減少となりました。合格発表

D4共用試験 OSCE実施報告

OSCE委員長 長谷川 篤司

2月3日(土)に歯学部第4学年を対象とする共用試験OSCEが歯科病院にて実施されました。今回の参加・協力者は234名(教員182名、職員8名、SP26名、学外評価者18名)にのぼり、歯科病院を休院にして歯科病院教員のほぼすべてと基礎講座教員、そして職員の協力を得ての実施となりました。

実施準備はOSCE委員会が担当し、6課題(面接系1、説明系1、技能系4)を3フロアに2課題ずつ配置しました。当日は101名の受験者に遅刻、欠席者は一切無く、全員上下白で統一された白衣で受験しました。学外よりの参加者からは、身だしなみや態度を高く評価していただきました。

歯科病院で診療参加型臨床実習を実現するための社会に対する説明責任として、多くの教職員が厳粛公正に試験を実施したことをご報告いたします。

香港大学歯学部のパブリックを視察して

PBL副委員長 片岡 竜太

2月14日から16日に香港大学歯学部のパブリック教育、基礎・臨床実習を見学しました。香港大学では1998年よりカリキュラムにPBLを全面的に導入し、基本的に講義は行っていません。歯学部は高校卒業後入学の5年制で、新学年は9月から始まり、1年を4つの学期(約2ヶ月)に分け、それぞれの学期に同じファシリテータの下で4~5のPBLパッケージに取り組んでいます。各学年終了時に到達すべき目標を決め、PBLを中心とするカリキュラムが組まれています。PBLのコアタイム(ファシリテータと学生と一緒に過ごす時間)、自己主導型学習を行う時間(自習時間)、基礎教養科目、基礎実習、臨床実習、臨床見学がカリキュラムに占める割合はおおよそ下の表に示すとおりです。



	1年	2年	3年	4年	5年
PBL コアタイム	20(%)	10	10	10	10
自己主導型学習	60	30	30	30	20
基礎・教養科目	20	10	10		
基礎実習		10	30	10	10
臨床実習		20	20	40	50
臨床見学		10			10

臨床実習を行うための準備としての基礎実習と臨床見学の役割が明確になっており、PBLの内容も臨床実習とうまく関連づけてあります。評価は臨床能力試験、ファシリテータ評価、自己評価・相互評価、PBLの問題に取り組む過程についての理解度を問うトリプルジャンプ、問題に対する自分なりの解釈を問う試験、OSCE、臨床実地問題、ポートフォリオ等を総合して行っていました。カリキュラムの評価も内部評価(学生・卒業生・教員)と学外(国外)の外部評価者による評価を受けているとのことでした。

行事予定

広報委員長 五十嵐 武

- 3月 4日(日): 歯学部選抜 期入学試験
- 3月16日(金): 卒業式・卒業証書伝達式・謝恩会
- 3月17日(金): 歯学部ハイテクリサーチセンター・平成18年度研究成果発表会
- 3月28日(水): 歯科医師国家試験発表
- 3月29日(木): 大学院修了式
- 3月30日(金): 登院式(新5年生, 歯科病院にて)
- 4月 1日(日): 大学院歯学研究科入学式
- 4月 2日(月): 平成19年度進級式(新2, 3, 4年生)
- 4月 6日(金): 昭和大学入学式
- 4月 6日(金): 平成19年度進級式(新6年生)

私立歯科大学・歯学部附属病院「事務長・課長懇談会」

歯科病院 事務長 外川 謙

事務長・課長懇談会が本学歯科病院に於いて2月23日に開催されました。当日は15大学の16病院から30名の出席がありました。この会議は当院と東京歯科大学病院が世話校となり、今回で4回目の開催となりました。初めに川和病院長の挨拶の後、各病院より事前に提出された議題について3時間30分の時間をかけて出席者から忌憚のない意見をいただき大変有意義な会議となりました。また、懇談会終了後、懇親会が開催され、ここでも活発な意見交換がなされ、盛会のうちに終了致しました。



昭和大学外国人研修生懇親会

高齢者歯科 佐藤 裕二

1月16日の夕方、中央棟7階で昭和大学に来られている外国人研修生との懇親会が開催されました。歯学部からは6名が参加されました。自己紹介とこれまでの日本での活動、そして感謝の気持ちを述べられました。3月に帰国される研修生も多いのですが、この経験を生かして帰国先で活躍されることと、今後の国際交流の架け橋になっていただければと思います。



編集後記

広報委員(口腔病理学教室) 山本 剛

平成18年度もあと1ヶ月を残すのみとなりました。本年は異常気象の為非常に暖かい日が続いております。例年より花粉の飛散時期が早いようで、インフルエンザの流行とも重なって通勤時にマスクをされている方を多く見かけます。体調管理の難しい季節ではありますが、皆様くれぐれもお体に気をつけてお過ごし下さい。

また、お忙しい中、原稿執筆にご協力下さった方々に心より感謝いたします。